

## 日本土壤微生物学会誌 執筆要領

1. 報文、ノート、シンポジウム・特別講演記録、総説・解説は以下の執筆要領に従う。
2. 原稿はワードプロセッサで A4 版用紙に上下左右 3cm の余白を設け、文字サイズ 10.5～12 ポイントの一般的なフォントを用い、1 頁当たり 25 行程度になるように作成する。
3. 各頁右上隅に通し番号（頁番号）を入れ、各頁に行番号を左余白に記入する。
4. 専門用語以外の和文は、原則として常用漢字および新仮名遣いを用いる。
5. 本文中では原則として化学式を用いず、化合物の名称を明記する。
6. 本文中の見出し項目（あるいは節）は、ボールド（太字）とし、数字はアラビア数字を用いる。
7. 図はそのまま写真印刷に用いるので、上質白紙に明瞭に描くか、または A4 版用紙の中央に図を配置したファイルを作成する。植字も行わないので、図中の文字・数字も明瞭に書く。また、出来上がりの大体の縮尺を指定する。
8. カラー図版を著者に無償配布される PDF ファイルのみとし、冊子印刷にはモノクロページを希望する場合（投稿規程 14 参照）は、カラーページをグレースケール化しても内容が判然とするように作図する。
9. 図表のタイトルおよび説明は日本文または英文で表す。本文欄外に図表の挿入箇所を指定する。
10. 文献の略名は、和文誌の場合は日本化学総覧の用例に、欧文誌の場合は公的機関がインターネット上で提供している Journal Title Abbreviation 等の用例による。
11. 文献の記載はアルファベット順とし、本文中での引用は（著者名、年）とする。ただし、総説等で引用文献が多数にわたる場合は番号をふって引用しても良い。
  - 1) 土壤微生物研究会編（1975）土壤微生物実験法，p.431，養賢堂，東京（書籍単数ページ引用の場合）
  - 2) Ishizawa S, Suzuki T, Koda T, Sato O (1958) Studies on microorganisms and their activities in soil. *Bull. Natl. Inst. Agric. Sci. Ser. B*, **8**, 1-212 (in Japanese)
  - 3) Jenkinson DS, Ladd JN (1981) Microbial biomass in soil: Measurement and turnover. *In Soil Biochemistry*, (Ed.) EA Paul, JN Ladd, pp.415-471, Marcel Dekker, New York（書籍複数ページ引用の場合）
  - 4) Jenkinson DS, Powlson DS (1976) The effect of biocidal treatments on metabolism in soil—V: A method for measuring soil biomass. *Soil Biol. Biochem.*, **8**, 209-213
  - 5) Kanazawa S, Hayano K, Turu S (1981) Soil enzyme. Part 1. Soil enzyme on the cycles of carbon, nitrogen and phosphorus. *Chem. Living-Org. (Kagaku to Seibutu)*, **19**, 235-242 (in Japanese)
  - 6) 木村真人・和田秀徳・高井康雄（1977）水稻根圏に関する研究（第4報），根圏土壤の理化学的性質（その2），土肥誌，**48**，540-545

- 7) Lynch JM, Panting LM (1980a) Cultivation and the soil biomass. *Soil Biol. Biochem.*, **12**, 29-33
- 8) Lynch JM, Panting LM (1980b) Variations in the size of the soil biomass. *Soil Biol. Biochem.*, **12**, 547-550
- 9) 宮下清貴・加藤哲郎・都留信也 (1983) 都市ごみコンポスト施用土壌の放線菌, 土と微生物, **25**, 23-31
- 10) 小川 眞 (1979) マツタケの生物学, 築地書館, 326p, 東京 (書籍全巻引用の場合)
- 11) 酒井 宏・白石俊昌・諏訪澄長・剣持伊佐男・大塚郁雄・漆原寿彦 (1998) 群馬県におけるキャベツパーティシリウム萎凋病の発生と病原菌の系統, 日植病報, **64**, 331 (講要)
12. 和文原稿の場合, 1 ページ目に表題, 著者名, 所属を, 2 ページ以降に英文の表題, 著者名, 所属および英文要旨 (要領 1 2 および 1 3 に従う), キーワード (要領 1 4 に従う) を記し, 改ページの後, 本文, 和文要旨, 文献の順に記す。英文原稿の場合, 和文のスタイルに準じるが, 和文の表題・要旨は必要としない。
13. 和文原稿 (報文, シンポジウム, 解説等) の場合, 500 字以内の和文要旨を必要とする。
14. 和文原著論文 (報文) の場合は 250 語以内の英文要旨を必要とする。シンポジウム, 総説, 解説, ノートについては英文要旨を推奨し, その字数は本文に合わせて調節する。
15. キーワードは英語で 5 語以内とする。
16. 論文中で新規に明らかにした核酸塩基配列は, 著者の責任において DDBJ/EMBL/Gen Bank データベースに登録するものとする。その accession No. を論文が受理されるまでに取得し, 論文中の該当箇所 (本文, 表説明, 図説明のいずれか) に記載する。
17. その他は「土と微生物」の最新号に従う。